

【令和2年度 アジア・エネルギー安全保障セミナー】
自由で開かれたインド太平洋とエネルギー・鉱物資源の現在
(令和3年2月18日(木) 15:30~18:00)

鷲尾英一郎 外務副大臣挨拶

大林剛郎経団連外交委員長/大林組代表取締役会長、ご登壇者の皆様、オンラインでご参加
いただいております皆様、

外務副大臣の鷲尾英一郎です。本日は、2002年の当時の小泉総理の時代から開催しており
ます、「アジア・エネルギー安全保障セミナー」にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。
本令和2年度は、「自由で開かれたインド太平洋とエネルギー・鉱物資源の現在」と題しまして、エ
ネルギーと鉱物資源をめぐる国際関係について、様々な立場の皆様にご議論いただきたく思いま
す。

ご承知の通り、現在国際社会は、化石燃料から再生可能エネルギーを中心とした社会への転
換を急ピッチで進めている真っ只中です。先般、我が国も2050年までの脱炭素社会の実現を菅
総理大臣が宣言したところであります。米国においても、バイデン新大統領が力強く気候変動対
策を打ち出しているところです。

皆様は、この脱炭素社会の実現の鍵が、実は鉱物資源が将来にわたって安定的に供給される
ことにあると聞いた時、どう思いますでしょうか。

ここで言う鉱物資源とは、例えば、レア・アース、リチウム、コバルトやニッケルのように、太陽
光・風力発電をはじめとする再生可能エネルギーのジェネレーターや、それらを活用するための蓄
電池の製造に不可欠な素材のことです。

再生可能エネルギーを社会の隅々に広げるためには、それらを作るために必要な膨大な鉱物
資源の需要を満たし続ける必要があります。エネルギー転換のためには、鉱物資源をめぐる国際
社会の在り方もまた、再構築をしていかなければならない課題となっているのです。

各国や国際機関などにおいては、エネルギーと鉱物資源の新しい関係性について、既に真剣な議論が行われ始めています。例えば、本日までご出席いただいている国際エネルギー機関(IEA)は、本年、重要鉱物資源に関して同機関として初めてとなる包括的な調査報告を発表されるものと承知しております。また、国際再生可能エネルギー機関(IRENA)においても、昨年から重要鉱物資源に関するワーキング・グループが立ち上がり、活発な議論がなされているものと承知しております。

そういった議論の中でもとりわけ重要な論点として挙げられるのが、鉱物資源の採掘、精錬、加工といったサプライチェーンの強靱化についてです。しかしながら、こうした鉱物資源の多くは、資源の偏在性、資源ナショナリズムの台頭等により、安定した供給に懸念があることから供給源の多角化等への取組が一層重要になってまいります。

これらの取組を進めていく上では、本日のテーマである、「自由で開かれたインド太平洋」の考え方に賛同し、普遍的な価値の拡大を志向する国々との協力と連携が不可欠であります。本日、ブリンケン米国国務長官主催で、日米豪印外相電話会談が実施され、様々な分野で実践的な協力を進めるため幅広く議論を行う予定です。公正な市場の実現、人権の保護、透明な労働基準の確保といった、普遍的な価値に基づいたルールが存在は、国際社会の平和と安定を維持強化するための基盤となるものです。また、環境への配慮も重要な視点となって参ります。我が国としては、志を同じくする国々とともに、あらゆる機会を活用して積極的な提案を行っていく考えです。

また、官民の連携も今まで以上に重要となってまいります。民間セクターとともに、将来の鉱物資源の正確な需要予測を導き出すことが必要でしょう。例えば、今は十分足りていると考えられている銅といった鉱物資源について、将来的には世界の需要を満たせなくなるかもしれないとの研究結果があるとも承知しております。鉱物資源の持続的な供給に向けて官民で取り組まねばならない課題は山積していると言えるでしょう。

最後に、本日の議論が、公正で公平な国際社会のルール作りの一助となるとともに、これから大いに注目を集める本分野への皆様の理解を深める機会となることを祈念して、私からの御挨拶とさせていただきます。ご清聴有り難うございました。

(了)